

くらよし

July
2011

7

平成23年7月号

No.1397

今月のトップ：「大震災」を教訓に



Proud!

東日本大震災の復興を支援しよう

Japan

自分たちの地域は
自分たちで守る！

～第56回倉吉市消防ポンプ操法大会～

CONTENTS

- 「大震災」を教訓に 2～7
- 国民健康保険・後期高齢者医療 .. 8～9
- 第35回倉吉打吹まつり 10
- インフォメーション・プラス 11
- インフォメーション 12～15
- あんしんファイル/介護予防 16～17
- まちかどピンナップ 18～19
- シナプロ韓国/とりたん 20
- ハート・バリアフリー 21
- 出かけてみよう 22～23
- 元気通信/人口 24

Proud!

東日本大震災の復興を支援しよう

Japan

「大震災」を教訓に

大規模災害は、いつどこで発生

するか、誰にもわからない。

私たちは、東日本大震災で嫌と

いうほどそれを思い知った。

しかし、立ちすくむばかりでは

いけない。

私たちは、この災害から多くを

学ばなければならぬのだから。

明日起こるかもしれない大規模

災害に備え、どう行動すべきかを。

東日本大震災で、多くの職員が津波の犠牲となった宮城県
南三陸町防災対策庁舎(6月6日(月)、本市職員撮影)

「想定外」を想定した「備え」を

平成23年3月11日午後2時46分、東日本大震災発生。それ以降、私たちは、それまで漫然と持っていた安心・安全意識を根底から覆され続けています。

テレビから流れる被害の様子は、人間が考える「想定」がいかにかいものかを突き付けているようです。

「災害は忘れた頃にやってくる」という言葉があります。しかし、近年では、「忘れる間もなく」やってきています。

ですから、「今この瞬間、災害が発生したら、私たちはどう行動すべきか」を、もう一度見直さなければなりません。例えば、今回のようなマグニチュード9.0という地震が発生した場合、誰があなたや家族を守るのでしょうか。地域に密着した消防団は、

地域防災の要として、頼りになる存在です。

消防団員だけではありません。住民一人一人が、自分の身は自分で守るよう日ごろから意識することも必要です。災害発生時、どう行動し、どこに避難するのか。家庭や職場などで話し合ってみましょう。同時に家屋や家具の耐震化を図り、持ち出し品の補充を進めましょう。

地域住民で助け合うためには、普段から近所づきあいや、地域活動に参加することも大切な要素となるでしょう。

東日本大震災が発生して100日以上が経過した今、被災地の人たちは、助け合い、支え合いながら復興への道を歩み始めています。心を痛めてばかりはいられません。明日起こるかもしれない大規模災害に備え、私たちは、この災害から多くを学ばなければなりません。

東日本大震災復興支援
Proud! Japan
(プラウド! ジャパン)



東日本大震災の被災地を支援しようと、全国の自治体広報担当者有志が呼びかけて行われている運動。広報紙などに掲載することで、地域住民や全国に向けて復興支援を呼びかけるものです。

proudの和訳は、「誇り」。混乱の中でも秩序を守り、助け合う被災地住民や救援活動を行う人たちへ、「あなた方は日本の誇りです。みんなが応援しています」というエールを日本全国から送り、復興の力にしてみらおうという運動です。

被災地派遣レポート

「命以外全部失った」

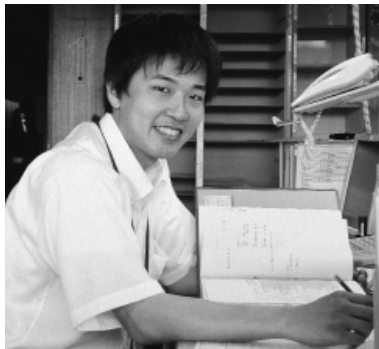
派遣先の石巻市内には約140か所の避難所があり、私はその中の1つ、鹿妻小学校避難所(体育館)で災害応援隊として10日間、避難所の清掃や救済物資の整理などに従事しました。

「命以外は全部失った。だから、もう避難所では得るものしかない。ここではみんなが、自分ができる小さなこと

を積み重ねていく」みんながそう思っていて、つながりを大切に生活している。

倉吉市役所 総務課
田邊 章浩さん

(5月6日(金)～15日(日)に石巻市へ災害応援隊として派遣)



を積み重ねている」と語っていたのは、日中、仕事で外出する本部長の代理として、避難所を切り盛りする本部長代理でした。

鹿妻小学校は、周辺家屋が浸水、特に学校南側の住宅は1階部分がほぼ壊滅状態となり、災害当初約2,000人が避難し、体育館と3階建ての校舎が足の踏み場もなかったそうです。

また、衛生面や生活面、学校再開に伴う学校側との調整など、運営についての課題が毎日山積みだったそうです。それでも、本部長と本部長代理が全体をまとめながら、みんなが一つ一つ解決してこられました。

日ごろの地域のつながりが基盤となる

私が派遣されたとき、避難所では、すでに避難所対策本部を中心とする自治会が組織され、避難者約280人は1班々13班に分かれて生活しておられました。

毎日必ず朝と夕に10分程度の班リーダー会議が開かれ、班ごとに避難者の数や避難所

内の要望などが本部へ報告されます。各班には毎朝のトイレ掃除などの役割も与えられていました。また、朝食と夕食は子どもたちが配膳を担当していました。本部長代理の言葉どおり、みんなが自分と与えられた役割を果たしながら生活しておられました。

そこでは、親子、親戚、友人、学校、地域など、被災前から培われていたあらゆるつながりが、運営の基盤となり、避難所を支えているように感じました。

自分のできたこと・できること

帰り際、地震発生後から、一日一日を避難所で積み重ねてこられた皆さんに「ありがとう、本当に助かった」と言葉かけられたとき、ほんのわずかでも応援隊の役割を果たせたのではないかと感じる事ができました。

この体験を通し、日ごろからの人と人のつながりの大切さを実感するとともに、甚大な被害を受けた地域の皆さんへの継続的な支援が必要であると感じました。

地域を守る熱い思い



東日本大震災の被災地では、立ちすくむような被害を目の当たりにしてなお、愛する人と地域を守るために、献身的な活動を続ける地元消防団員の姿がある。

家族や地域を愛する心と使命感―

彼らと同じ思いを胸に、訓練を重ねる消防団が倉吉にもある。

被災地を支える消防団

東日本大震災では、地域住民を避難誘導する際、津波に巻き込まれたり、家族が行方不明になっているにも関わらず、懸命に捜索活動を続ける消防団員の姿が連日のように報道で伝えられています。

言うまでもなく、消防団はボランティア組織です。団員は、それぞれに仕事を持っています。しかし、震災が発生した時、いち早く現場に駆けつけ、被害の拡大を防ぐために努力し、人命救助や行方不明者の捜索に従事した団員が

たくさんいました。

彼らを支えたのは、愛する人を、愛する地域を守らなければならぬという使命感。

―地元を知り尽くした消防団だからこそ、できることがある―。

そんな共助の精神が、今も被災地を支えています。

同じ思いを胸に

6月19日(日)、飛天夢広場(倉吉大橋下)において、「第56回倉吉市消防ポンプ操法大会」が開催されました。

この大会は、各地区の消防団員が、火災の初期段階で、





地域のつながりを
大切にした活動を

倉吉市消防団 団長
尾崎 和行さん

消防団員は、普段はそれぞれ仕事を持っています。ですから、四六時中、災害のことを考えているわけにはいきません。

しかし、ひとたび緊急事態が発生すれば「やったるわい!」という自負と気概を持つ団員が倉吉市消防団にはたくさんいます。本当に頭が下がる思いです。

消防団が、地域の安全・安心を守るために有効に機能するには、何より日ごろの訓練が大切です。そして、それには、家族や地域のサポートが必要です。今回の操法大会にも、たくさんの地域の先輩や家族が関わっておられ、地域の絆がつながり続けていることに頼もしさを感じます。

自分の住む地域は、自分たちで守るという強い自助・共助・公助の意識を持ち、一丸となって災害に立ち向かう消防団でありたいと思います。



応援に来ていた
細川 香さん、日菜子さん(小6)、琉平くん(小4)、秀太くん(小1)

「夫(細川裕文さん)が、上北条分団の団員として出場しているので応援に来ました。初出場ですし、普段、家でも大きな声を出さない人なので心配していましたが、無事にやり遂げたので私もホッとしました」(香さん)

「家では優しいお父さんだけど、今日はきびきびしていてカッコよかったです。地震や火事になっても、お父さんが消防団員なので安心です」(日菜子さん、琉平くん、秀太くん)



いざというとき、消防団員として
何ができるのか—
日ごろから考えていきたい。



迅速・確実・安全に消火活動を行うことができるよう操作と取り扱いの訓練を重ね、成果を競うものです。

雨の気配もする梅雨曇りの下、16分団(ポンプ車操法の部4分団、小型ポンプ操法の部12分団)が参加しました。

各分団とも、指揮者の号令のもと、きびきびとした動きで、前方の火点として想定された標的に向かい、ホースをつなぎ、放水していきました。

出場した団員の一人は、「今回の大震災で消防団員としての意識が高まった。いざというとき自分に何ができるのか、日ごろから考えていきたい」と話していました。



■小型ポンプ操法の部
優勝 上井分団A



■ポンプ車操法の部
優勝 関金第二分団

心と物を備える

【非常用持出品例】

(倉吉市地震ハザードマップより)

- 懐中電灯
- 携帯ラジオ
- ホイッスル
- 常備薬
- 飲料水、非常食(3日分)
- お金(小銭も)
- 運転免許証、預金通帳、印鑑、保険証など
- 携帯電話と充電器
- メガネ、コンタクトレンズ
- キッチン用ラップ
- 紙コップと器
- 下着、着替え
- 生理用品
- ガスコンロ
- 毛布
- 飲料水を貯めるポリタンク
- 寝袋
- 食品類
- 調理器具
- 工具

チェックしてみよう!



▲ 倉吉市社会福祉協議会は、毎年、歳末たすけあい運動で寄せられた募金により、高齢者や障がい者世帯、ひとり親家庭に「非常持出袋」を配布しています。その数は、平成17年度から延べ4,800世帯にのぼります。平成20年度からは、緊急時に救助を求めるための「ホイッスル(笛)」も加えられました。参考にして、非常持出袋をそろえてみましょう。

もし、地震が発生したら、あなたは、まず何をしますか？ 家族とは、どこで会えますか？ 何を持って避難しますか？

非常時には、パニックになってしまうもの。それを最小限に抑えるには、日ごろからの心と物を備えることが大切です。

1物の備え

防災用品…災害発生時、すぐに持つて避難できるように、非常持出袋を用意しておきましょう。置き場所が1箇所では持ち出せない可能性もあるので、玄関先はもちろん、できれば寝室や台所など複数の場所に置いておきましょう。赤ちゃんがいる家庭では、ミルクやほ乳瓶、おむつなども用意しておきましょう。家族構成などによって必要な持出品は変わります。家族で話し合ってみましょう。

非常食は、手軽で栄養のバランスに優れたものを準備しておきましょう。最近では手軽なハンディタイプもあります。家屋が倒壊した際には、大工道具(のこぎりやパール、ハンマー、スコップなど)が活躍します。家の中に安全地帯を…家具や重い電化製品は、災害時に転

ておきましょう。最近では、乾パン以外にも、栄養価の高い非常食が豊富にあります。ラジオは正確な情報収集に欠かせません。今は、手巻きで充電するタイプや、懐中電灯が付いたタイプなどもあります。予備の電池も忘れずに用意しておきましょう。

火災の発生にも備え、消火器を台所などに用意しておきましょう。最近では手軽なハンディタイプもあります。

火災の発生にも備え、消火器を台所などに用意しておきましょう。最近では手軽なハンディタイプもあります。

避難生活になったら3か条

- 自主防災組織(自治公民館)を中心に!
- ルールを守ろう!
- 助け合おう! 災害時要援護者に心づかいを

~3日

- 生活必需品は備蓄でまかなおう!(まだ外部からの応援は期待できないため)

水・食料・ラジオ・ライト・常備薬等

- 自治体の広報に注意!
- 無理はやめよう!
- こわれた家に入らない!
- がまんと助け合い!

10分

~数時間

- みんなで消火活動!
- みんなで救出活動!

消火・救出が難しいときは消防署等へ連絡

簡単な手当は自分で!

5~10分

- ラジオをつけよう!
- デマにまどわされるな!

- 県や市などの情報を確認!
- 電話はなるべく使わない!

【緊急連絡を優先】
安否確認は伝言ダイヤル[171]を!

避難のときは
■ ガス栓を閉めてブレーカーを切る! ■ 車で逃げない! ■
■ フロックの崩壊・自動販売機の転倒、看板やガラスの落下、がれきに注意!
■ 行き先メモを玄関に! ■ 子どもを学校等へ迎えに!

まだあります！
こんな「備え」

①倉吉市のハザードマップ
(地震・洪水)



倉吉市では、平成19年3月に地震と洪水のハザードマップを作成し、全世帯に配布しました。(※地震は9つの地区に分割して作成。洪水は、上北条・上井・西郷・上灘・成徳・明倫地区をまとめて作成)

ハザードマップは、災害発生時の被害の範囲および被害程度などが地図に示されています。また、災害への「備え」も書かれています。もう一度、確認してみましょう。

②自主防災組織



「自分たちの地域は自分たちで守る」ことが地域防災の基本です。そして、地域防災活動の主体となるのは自主防災組織です。

現在、倉吉市内では、自治公民館が中心となって、自主防災組織を結成する地域が増え、防災について話し合いを進めています。

災害伝言ダイヤル

震度6弱以上の地震などの災害発生時に、NTTで設定されます。家族や友人などの安否を確認したいときに使用します。一般加入電話や公衆電話、携帯電話からも使用できます。可能な伝言蓄積数や保存期間等は、災害の状況により異なります。

録音方法

- 171にダイヤルする
- ▼ガイダンスが流れる
- 録音の場合1をダイヤルする
- ▼ガイダンスが流れる
- 連絡をとりたい電話番号を入力

30秒内で伝言を入れる

再生方法

- 171にダイヤルする
- ▼ガイダンスが流れる
- 再生の場合2をダイヤルする
- ▼ガイダンスが流れる
- 連絡をとりたい電話番号を入力

伝言が再生される

災害は、いつどこで起こるか分かりません。いつ、どこで災害に見舞われたとしても、第一に考えるのは、「いかにして自分の身を守るか」です。家の中..窓際や大型家具には近づかないで、机やテーブルの下に隠れ、揺れがおさまるのを待ちましょう。日ごろから机やテーブルの下に荷物を置かないようにしておきましょう。

また、水道が使えるようなら、できるだけたくさん容器に水を溜めておきましょう。家族の安否確認..災害伝言ダイヤルなどを活用して、家族の安否を確認しましょう。いざ避難..被災した場所に依じた避難場所へ。その際、非常持出袋は忘れずに。

倒してその下敷きになったり、避難の妨げになったりする恐れがあります。転倒防止金具などを取り付け、しっかりと固定しておきましょう。家の中のどこかに、家具のない、すぐに逃げ込める安全地帯(避難場所)をつくっておくことも大切です。

2 心の備え
家族との連絡..地震などが起きたとき、まず心配になるのが家族の安否です。日ごろから連絡方法や集合場所について話し合っておきましょう。曜日や時間帯によって異なる状況があることも考慮してください。災害伝言ダイヤルは、NTTが開発する災害時の連絡手段です。家族全員で使い方を

確認し、安否を確認できるようにしておきましょう。避難場所..日ごろ、自分が行動しているエリアの避難場所がどこなのか確認しておきましょう。自宅周辺だけでなく、職場やよく行くお店の周辺、家族の学校など、生活範囲全体で確認しましょう。

3 地震発生の瞬間
火の元などを確認..火災を防ぐためにもガスの元栓はしっかりと閉めましょう。ただし、揺れている間は、絶対に火の元に近づかないこと。また電気のブレーカーも落とします。

4 揺れがおさまったら
屋外..かばんやバッグをヘルメット代わりにしましょう。ブロック塀や自動販売機などは倒壊や転倒の危険があるので離れるようにしましょう。

地震からあなたと家族を守る
行動パターン

大きな地震が発生したら、冷静に対応するのは難しいものです。

けれども、一瞬の判断が生死を分けることもあります。

地震が起きても、「あわてず、落ち着いて」行動するために、行動パターンを覚えておきましょう。

3秒

地震だ！

- 落ち着こう！
- 自分の身を守ろう！
- 揺れがおさまった後の火元の確認と脱出口確保を意識しよう！

1~2分

揺れがおさまった

津波や山・がけ崩れの危険が予想される地域はすぐに避難

- 火元を確認！初期消火
- 家族の安全を確認！
- 靴を履く！（ガラスの破片などから足を守る）
- 非常持出品の準備！

3分

● 近所の安全を確認！

● 近くに火は？

大声で知らせよう！

消火器を使おう！

バケツリレーだ！

● 余震に注意しよう！